

平成27(2015)年度

「運営に関する計画」  
中間評価



大阪市立御幣島小学校

平成27年10月

# 中間評価

(様式2)

大阪市立御幣島小学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなか	
年度目標	達成状況
<p>【視点 学力の向上】</p> <p>① 国語、算数において、学習理解度到達診断の平均正答率が全学年で75%を上回るようにする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>② 平成27年度末の保護者アンケートにおける「学習の基礎・基本が身についている」と答える保護者の割合を全ての学年において8割以上とする。 (カリキュラム改革関連)</p>	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 言語力や論理的思考能力の育成】</p> <p>国語科を中心に読解、記述、コミュニケーションに関する言語活動を取り入れ、養った力を他教科の学習や体験活動に関連させていく。 (カリキュラム改革)</p> <p>指標</p> <p>言語活動の取り組みを全ての教育活動で実施する。</p>	
<p>取組内容②【区分 習熟度別少人数授業の充実】</p> <p>少人数、習熟度別学習、TTなど学習形態を工夫し、学習の効果が高まるような取り組みを進める。 (カリキュラム改革)</p> <p>指標</p> <p>少人数、習熟度別学習など学習形態を工夫し、個に応じた指導を実施する。</p>	
取組の進捗状況	
<p>取組内容①</p> <p>説明文を中心に、叙述に沿って文章を構造的に読む力を育んできている。また、ICT機器を活用し、理解を深めたり、交流の場に活かしたりすることができてきている。その結果、他教科でも意見を述べたり、文章を書いたりする言語活動が活性化してきている。</p>	
<p>取組内容②</p> <p>少人数、習熟度別学習、TT、特別支援教育サポーターによる支援など学習形態を工夫し、個に応じた指導と一斉指導をバランスよく行い、基礎学力の向上に努めている。</p>	
改善点	
<p>取組内容①</p> <p>基礎学力の向上と国語科で養った力を他教科や様々な活動の場面における言語活動に活かしていく。</p>	
<p>取組内容②</p> <p>個に応じたきめ細やかな指導の継続。</p>	

# 中間評価

(様式2)

大阪市立御幣島小学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなか

年度目標	達成状況
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <p>① 平成27度の全国学力・学習状況調査や学校アンケートでの自尊感情や友達との関わりを問う設問において肯定的に答える児童の割合を8割以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 人権を尊重する教育の推進】</p> <p>日常の実践・学校行事を通して、「ちがい」を認め合い、支え合う仲間作りを進める。 (カリキュラム改革)</p>	
<p>指標</p> <p>人権教育年間計画を作成し、学年ごとに取り組んだ実践の交流を行う。とともに、人権に対する資料や図書を参考にして、取り組みの進化と充実を図る。</p>	
<p>取組内容②【区分 道徳教育の推進】</p> <p>特別活動や道徳教育を通して、自他を尊重し、自分が貢献できることを考える子どもを体験活動等を取り入れながら育てる。 (カリキュラム改革)</p>	
<p>指標</p> <p>たてわり班活動を取り入れた集会を学期ごとに実施し、力を合わせ助け合う体験の場を設定する。また、体験したことを持ちたり書いたりする活動を各学年、各クラスで取り組み、自己肯定感や他者尊重を持たせる。</p>	

## 取組の進捗状況

### 取組内容①

学校生活の様々な場面を通して、互いの「ちがい」を個性としてとらえ、認め合い支え合う集団育成に努めてきた。また、年間指導計画に従って実践を行い、人権意識の向上を図ってきた。

### 取組内容②

たてわり班活動や校外生活班活動など、異学年の交流活動の中で、お互い助け合ったり、尊重し合ったりできている。

## 改善点

### 取組内容①

「ちがい」を認め合い、支え合う仲間作りの実践の場をさらに設け、今後も継続して取り組んでいく。

### 取組内容②

集会活動や体験活動の機会を今後ももち、上級生が下級生のことを考えた思いやる行動を、下級生は上級生に感謝を表せる行動を身につけられるよう励ましていく。

# 中間評価

(様式2)

大阪市立御幣島小学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなか

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <p>① 学校における基本的な生活習慣（手洗い・うがい等）の定着度を調査し、全ての学年において80%の児童が身につくようにする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>② 運動能力面においては、敏捷性を伸ばすことを重点とし、個人の各種目ごとに記録の向上を目指す。 (カリキュラム改革関連)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 健康な生活習慣】</p> <p>給食前の手洗い、運動後のうがいの習慣が身につくようにする。</p>	
<p>指標</p> <p>学期に1回（6月・9月・1月）強調週間を設定し、チェックカードを使ってふり返りを行う。</p>	
<p>取組内容②【区分 体力向上への支援】</p> <p>年間計画にしたがって、運動能力の向上を図る。</p>	
<p>指標</p> <p>新体力テストの個人記録を前年度と比較する。</p> <p>50m走の記録を年2回とる。</p>	

取組の進捗状況
<p>取組内容①</p> <p>強調週間におけるチェックカードの活用や保健美化委員会による『手洗いのしかた』のビデオ、また給食委員会による働きかけ等を通して、手洗い・うがいの習慣化を図ってきた。その結果、89%の児童は手洗いができていたが、うがいについては、50%に満たなかつた。</p>
<p>取組内容②</p> <p>体育科を中心に、学年に応じて体力向上のための運動を取り入れたり、チェックカードを活用して、外遊びを呼びかけたりする等、運動能力の向上に努めてきた。その結果、ほとんどの児童は、昨年度の記録を上回っている。</p>

改善点
<p>取組内容①</p> <p>担任の声かけや、うがいの大切さを知ることから意識を高めていく必要がある。</p>
<p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外遊びや敏捷性を高める運動を今後も取り入れていく。</li> <li>・気候や体力面から考えて、2回目の50m走の記録測定時期を早めることを検討。</li> </ul>

# 中間評価

(様式2)

大阪市立御幣島小学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなか

年度目標	達成状況
<p>【視点 特別支援教育の充実】</p> <p>① 平成27年度保護者への授業アンケートにおける「個の状況に応じた支援」の項目に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と返答する割合が学校全体で7.5割以上とする。</p>	△

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 特別支援教育の充実】</p> <p>特別な支援を要する児童について、実態と課題を把握し、「個別の指導計画」を作成するとともに、活動内容を工夫し、特別支援教育の充実をはかる。</p> <p>(学校サポート改革)</p>	△
<p>指標</p> <p>個に応じた課題を設定し、保護者との懇談を通してより子どもの実態に即した内容とする。</p>	△
<p>取組内容②【区分 特別支援教育の充実】</p> <p>校内委員会を定期的に実施、配慮を要する児童の理解に努めるとともに、よりよい手立てについて意見交流を行う。</p> <p>(マネージメント改革)</p>	△
<p>指標</p> <p>学期に2回、年間6回以上の校内委員会を実施し、共通理解をはかる。</p>	△
<p>取組内容③【区分 特別支援教育の充実】</p> <p>特別支援教育全体研修会を開いて、個々の子どもについて理解を深め、教職員全体で集団育成の視点から働きかけを行う。</p> <p>(マネージメント改革)</p>	△
<p>指標</p> <p>全体研修会を年度当初と年度末に実施し職員全体による積極的な支援を行う。</p>	△

取組の進捗状況
<p>取組内容①</p> <p>引き継ぎ内容を参考にしながら子どもの実態を観察し、同学年の担任や保護者とも相談して指導計画を作成した。それに沿って実践を進めている。</p>
<p>取組内容②</p> <p>校内委員会を月1回のペースで実施し、児童の状況や課題について共通理解を図っている。よりよい手立てについての話し合いや支援体制に生かされている。</p>
<p>取組内容③</p> <p>年度初めの全体研修会で、個々の子どもについて理解を深めた。特別支援研修も受け、職員全体で支援にあたっている。</p>

改善点
<p>取組内容①</p> <p>指導計画は隨時見直しながら児童の現状に応じた指導を行う。学習場面における具体的な「合理的配慮」についても明記する。</p>
<p>取組内容②</p> <p>今後も定期的に校内委員会を実施する。内容を学年会等で伝達することにより、全体への共通理解を図っていく。</p>
<p>取組内容③</p> <p>集団育成の視点で、児童会活動や学校全体での活動でも工夫しながら継続的な支援をすすめていく。</p>